第 12 回学生研究発表会を終えて

副実行委員長　山中　真也*

第 12 回学生研究発表会が主催：日本海水学会若手会，共催：日本海水学会 西日本支部により令和 3 年 3 月 5 日オンラインで開催されました．近年は，企業研究会，見学会，交流会などモリモリのイベントになりつつある本会ではありますが，今回はコロナウイルス感染症の拡大に伴いオンラインで実施可能なイベントに絞った結果，キュッと 1 日開催となりました．まずは，ご参加の皆様（46 名）と後述の企業研究会に参加くださった 6 社に心より御礼申し上げます（**写真 1**）．

写真 1　本会の様子

* 室蘭工業大学しくみ解明系領域（〒 050-8585　室蘭市水元町 27-1）
Department of Applied Sciences, Muroran Institute of Technology, Mizumoto-cho 27-1, Muroran 050-8585, Japan

写真 2　表彰式の様子

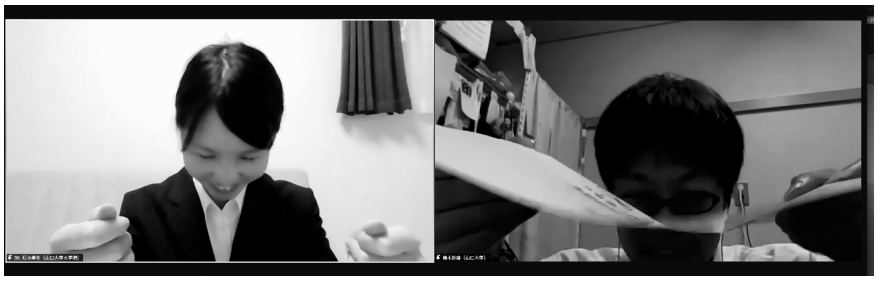

写真 3　表彰式の様子

本会実行委員長の神田康晴先生の指示（元をただせば私（？）：2017 年第 4 回海水・生活・化学連携シンポジウム報告記参照）により副実行委員長を務めました山中が報告いたします．事情により参加の叶わなかった方々が，どのような会だったかを知る機会になれば幸いです．

そもそも本会は，若手会が主催する学部生・大学院生を対象とした研究発表会であり，平成 21 年度（2009 年度）より実施しています．未だ学会発表に至っていない萌芽的な内容も含め，日頃の研究成果を発表する機会を学生に提供するとともに，他大学の学生および教員や企業関係者らとの交流を促すことを目的としています．

今回の第 12 回学生研究発表会は，第 6 回登別での開催同様，室蘭工業大学の若手会会員が世話役となり企画しました．神田康晴・実行委員長の指揮のもと，上記目的を達成するために，可能な限り交流が促進できるよう企画した本会について，ご参加された皆さま，いかがでしたでしょうか？

【口頭・ポスター発表】

口頭発表（発表 6 分，質問 2 分）24 件，ポスター発表（45 分間）21 件でした．当初，件数が少ないことを危惧しておりましたが，数だけ見れば発表申込件数は例年どおりでした．皆さまのご協力に感謝申し上ます．

活発な議論と交流という意味では，時間が足りなかったと感じた参加者もおられるとは思いますが，個人的にはポスター発表する前提の本時間設定は十分だったと思っています．

最優秀賞：

（**写真 2**）室蘭工業大学大学院・笹本諒さん「多孔性炭酸カルシウムのカドミウムイオン吸着機構」

優秀賞：

（**写真 3**）山口大学大学院・原田美冬さん「下水処理水の飲用再利用を目的とした統合的膜処理システムにおける逆浸透膜のアルギン酸によるファウリングとカルシウムイオンの役割」

（**写真 4**）群馬工業高等専門学校・木村一輝さん「非球形粒子群の粒径・粒子形状と固液分離性」

（**写真 5**）山口大学・藤井柊吾さん「ラビリンチュラの代謝制御によるカロテノイドの効率的生産法の検討」

以上の受賞者のみなさん，受賞おめでとうございます．若手会会長・鈴木祐麻先生の閉会の挨拶にもありましたように，こうした場をセッティングすることは我々教員・若手研究者の役目ではありますが，学生さんにおいては，こうした場が当たり前のものではなく，陰ながら誰かが支えていることを心の片隅でも良いので留めておいてほしいです．

【講演会】

若手会会長，実行委員長の想いから，直接的で直球な表現ではありますが，皆さまに本企画の意図を伝えることを最優先に「あれから 10 年，災害への意識や対策について改めて考えよう」というテーマを掲げました．ご講演いただいたお二人は，二つ返事でお受け下さいました．考える機会を与えて下さったことに改めて御礼申し上げます．

講演 1

東日本大震災から 10 年　～震災，台風被害を乗り越えて～

三陸鉄道株式会社 代表取締役社長 中村一郎 様

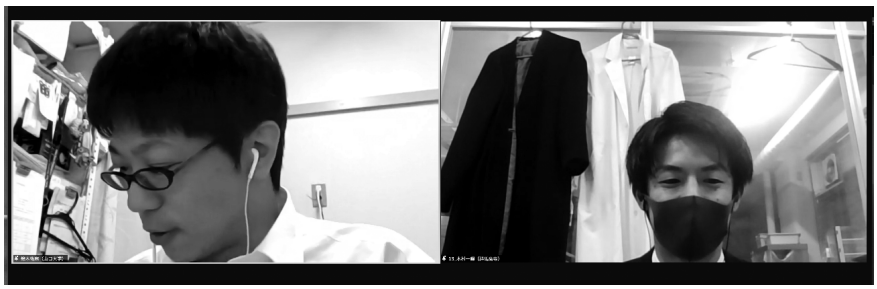

写真 4　表彰式の様子

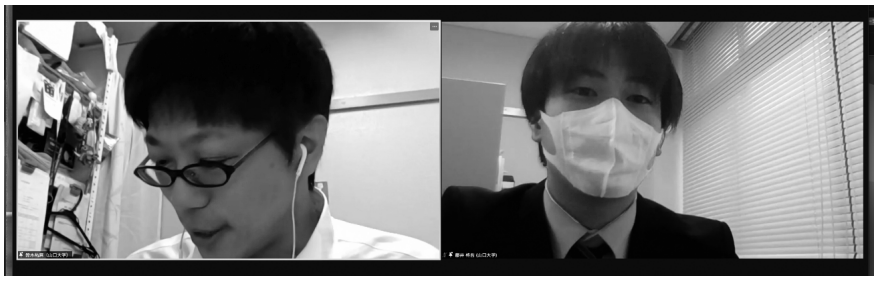

写真 5　表彰式の様子

講演 2
災害から市民は何を学ぶか
　－北海道胆振東部地震災害の事例
室蘭工業大学 准教授 有村幹治 先生

中村社長には，2017 年第 4 回海水・生活・化学連携シンポジウムでも講演いただいており，今回で 2 度目の講演となりました．当時，何を思い復旧に奔走されたのかを聞き，筆者自身は少なからず影響を受けました（具体的には研究テーマの設定です）．今回，2019 年の台風 19 号被害とその後の復旧や復興の様子を拝聴し，伝承することの難しさと大切さを改めて感じました．「皆さんにとって，得ることが一つでもあったなら幸いです」との社長の言葉がとても印象に残っています．

有村先生のご専門である都市計画は本テーマと深く関連するため，実行委員長の強い願いにより講演が実現しました．後日談ですが，先生によると「膨大なデータを防災計画に落とし込むためには，各種ステークホルダーの視点・価値観，リスクと実益のバランス等，複眼的な思考でまとめないといけない．」とのことです．コロナ禍においては多くの方々が共感できるのではないでしょうか．

【企業研究会】

若手会副会長・朝本紘充先生の企画運営により実施され，下記 6 社にご協力いただきました．
（順不同／敬称略）：

① ダイヤソルト株式会社
② ナイカイ塩業株式会社
③ 一般社団法人日本海事検定協会
④ 株式会社 トーケミ
⑤ 野村マイクロ・サイエンス株式会社
⑥ 大塚実業株式会社

5 分のフラッシュプレゼンテーションののち，15 分 4 セットの個別懇談会を行いました．以下，朝本先生の総括：学生さんは，自身で選択した企業のルームを自発的に回り情報を収集していました．一方で，質疑応答の場面では特定の参加者からしか質問がでず，対面のときのような一体感のある盛り上がりには欠けている場面も見られました．

以上のように，本会は，オンライン方式のメリットと限界を考える貴重な会となりました．加えて，日本海水学会若手会らしいウェルカムな雰囲気が，分野外の研究者でも気軽に参加して楽しめる本会の魅力の一つにつながっているのでは？との声も聞こえてきています．第 13 回学生研究発表会の開催形式は不透明ではありますが，どのような形式になろうとも，参加者の皆さまが同じ方向を向いて盛り上げて下さるものと確信しています．今後も，多くの方のご参加をお待ちしております．

実行委員会（50 音順／敬称略）
朝本紘充　（日本大学，企業研究会担当）
神田康晴　（室蘭工業大学，実行委員長・総務・口頭発表担当）
佐々木貴明（塩事業センター，総務担当）
鈴木祐麻　（山口大学，若手会会長・総務担当）
高瀬　舞　（室蘭工業大学，ポスター発表担当）
中島聖珠　（塩事業センター，総務担当）
邑上泰平　（塩事業センター，総務担当）
山中真也　（室蘭工業大学，副実行委員長・総務・講演会担当）